

《カンボジア》第3次フン・セン連立政権 内閣の概要と主要閣僚の略歴

第3次フン・セン連立政権の概要

《成立経過》

[9月25日] カンボジア下院は同日、7月27日の総選挙を受けた本会議を開き、与党・カンボジア人民党(CPP)副党首のフン・セン氏を首相に再任するとともに、CPPと議会第4党・民族統一戦線(フンシンベック党：FUN)との連続4期目の連立内閣を承認した(フン・セン首班政権としては第3次)。同日午後、プノンペンの王宮でのシハモニ国王を主宰者とする宣誓就任式を経て、フン・セン第3次連立政権が正式発足した。

《閣僚構成》

■大臣43人=首相1人、副首相9人、上級相(国務相)16人、各省大臣：(内閣官房長官を含め)26ポスト(専任17人、副首相兼任5人、上級相兼任4人)
*政治職(大臣・次官〔長官〕)就任者：258ポスト・249人(兼任9人)

《連立与党》

◎カンボジア人民党(CPP)：下院90議席
◎民族統一戦線(フンシンベック党：FUN)：下院2議席
(*下院定数は123)
※各省大臣(26ポスト)の政党別内訳はCPP 26人+FUN 0人で、CPPが完全独占。FUNの閣僚ポストは、副首相(専任)または特別任務担当の上級相だけで実質的な権限のない“名誉職”的な意味合いが強い。

(凡例)

*閣僚名のカタカナ表記については、本邦外務省発行の文献などを参考に、クメール語の発音をより忠実に示すものにした。ただ、大手邦字紙・通信社の報道ですでに普及している別の表記がある場合は、当該閣僚の略歴の【備考】欄で付記した。

*閣僚の略歴の末尾にある【既出データ】は、当該人物について本欄で【人物データ・ファイル】を掲載した本誌バックナンバーを示す(例：04/10/01=2004年10月1日号)

《首相》

■首相 Prime Minister
フン・セン
Hun Sen



▼データ：【政党】CPP：副党首(中央委副議長)【年齢】57歳(1951年4月4日生まれ)【生地】中部・コンボンチャム州ストゥントレン郡【宗教】上座部仏教【学歴】リセー・インドラデヴィ(高校)卒。1991：グエン・アイ・コック越共産党上級学院から政治学博士号取得。【経歴】1970：反ロン・ノル政権闘争に参加一王国民族連合政府(北京亡命政権)の第21区参謀長などを歴任。77：[6月](75年成立の)ポル・ポト政権(民主カンブチア)から離脱、ベトナムに脱出。78：[12月](反ポル・ポト勢力)カンボジア救国民族統一戦線(UFNSK)中央委員。79：[1月]人民革命評議会委員、プノンペン(ヘン・サムリン)政権外相。81：[5月]カンボジア人民革命党(KPRP：現CPP)政治局員、国会議員に選出(コンボンチャム州代表)、[6月]プノンペン政権閣僚評議会副議長(副首相)兼外相。85：同議長(首相)兼外相。86：[12月]外相職解任。87：[12月]外相兼任(復帰)。90：[9月]カンボジア最高国民評議会(SNC)メンバー。91：[10月]CPP中央委副議長(一現在)。93：[5月]制憲議会選挙、[7月](ラナリット殿下とともに)暫定国民政府共同首相。[10月](カンボジア王国政府)第二首相。98：[7月]総選挙、[11月](単独)首相に就任。2003：[7月]総選挙(連立政権交渉は難航)。04：[7月]首相に再任。08：[7月]総選挙、[9月25日]首相に再任。【趣味】チェス、作詞、ゴルフ。【家族】ブン・ラニー(Bun Rany：本名ブン・ソムヒアン)夫人との間に3男3女(うち1人は養子)。長男のフン・マネート(Hun Manet)氏(29歳)はウエストポイント米陸軍士官学校卒業生。【横顔】1993年9月の新生カンボジア王国誕生以来、4期連続で首相(93~98年は第二首相)の座を維持。自身が首班の政権と

しては98年、2004年に次いで第3次となる。

*生年月日は、公式には1951年4月4日生まれとなっているが、実際は1952年8月5日生まれ。

*1975年にロン・ノル政権が崩壊する前日の4月16日に左目を負傷し失明(義眼を使用)。

【既出データ】04/10/01

《副首相》

■副首相兼閣僚評議会担当相
(内閣官房長官)
Deputy Prime Minister / Minister of the
Office of the Council of Ministers
ソック・アン
Sok An



▼データ：【政党】CPP：中央委常任委員【年齢】58歳(1950年4月16日生まれ)【生地】タケオ州キリヴォン郡【学歴】(プノンペン)科学芸術学院卒(文学専攻)。高等師範学校(ENS)修了。1975：国家行政学院(ENA)修了(外交課程)。96：名誉法学博士(授与)。【経歴】1975年以前：タケオ州で教員・校長。75：ポル・ポト政権下。80：(プノンペン政権)フン・セン外相秘書官。82：外務省官房長。85：駐インド特命全権大使。88：[7月]副外相。91：人民党(CPP)中央委事務局長。92：副内相。93：[5月]制憲議会選挙 議員に当選(CPP：タケオ州)、[7月](暫定国民政府)内閣官房長官、[10月](カンボジア王国政府)共同内閣官房長官。97：CPP中央委常任委員(一現在)。98：[11月]上級相兼内閣官房長官。2004：[7月]副首相兼内閣官房長官(昇格)。08：[9月25日](第3次フン・セン政権)現職(再任)。【歴任】国軍動員解除評議会議長。行政改革評議会議長。政府観光局総裁。国家石油公社(CNPA)総裁。クメール・ルーージュ裁判問題特別委員会委員長。国家情報通信技術開発庁(NiDA)副長官。【家族】夫人はベトナム系。子供5人。

【横顔】フン・セン首相の“参謀長”的存在で文字通り内閣の要を務める実力者。

【既出データ】04/10/01

■副首相兼内相

Deputy Prime Minister / Minister of Interior
ソー・ケン

Sar Kheng



▼データ：【政党】CPP：中央委常任委員【年齢】58歳(1950年1月15日生まれ)【生地】プレイヴェーン州カムチャイミア郡【学歴】1992：プノンペン大学修士課程修了(政治学)。2002：ロシア自然科学アカデミー会員。【経歴】1970：反ロン・ノル政権闘争(王国民族連合政府)に参加ーカムチャイミア郡クラボア・コミュニオン書記兼同郡青年同盟副議長。73：機関紙「ポンルー・ボピア(Ponleu Bopea)」編集幹部。75：ポル・ポト政権(民主カンブチア)成立後、カンボジア共産党(PCK)北東地区専従書記。76：「ポンルー・ボピア」編集幹部(再任)。78：(反ポル・ポト勢力)カンボジア救国民族統一戦線(UFNSK)に参加。80：ベン・ソバン国防相(カンブチア人民革命評議会副議長)秘書官兼広報官。83：カンボジア人民革命党(KPRP：現CPP)中央委事務局長。84：KPRP中央委員。88：同中央委書記局長。89：[1月]同中央委事務局長、[4月]KPRP政治局員。90：同中央委組織委員長。92：プノンペン政権閣僚評議会副議長(副首相)兼内相。93：[5月制憲議会選挙]議員に当選(CPP：バッタンバン州)、[7月](暫定国民政府)副首相兼共同内相、[10月](カンボジア王国政府)副首相兼共同内相。98：[11月]副首相兼共同内相に再任。2004：[7月]副首相兼共同内相に再任。06：[3月](共同大臣制廃止に伴い)副首相兼内相。08：[9月25日](第3次フン・セン政権)現職(再任)。

【家族】ニム・サカン(Nhem Sakhan)夫人との間に2男1女

【横顔】チア・シムCPP党首(上院議長)の義理の弟。CPP内の主流派を自任してきた「チア・シムーサル・ケン派」のリーダーで、過去に「フン・セン派」とは微妙な権力闘争を演じてきた。物腰は穏やかで外見はインテリ・タイプ。【備考】(別表記)サル・ケン

【既出データ】04/10/01

■副首相兼国防相 Deputy Prime Minister / Minister of National Defense

ティア・バニュ

Tea Banh

▼データ：【政党】CPP：中央委常任委員【年齢】63歳(1945年11月5日生まれ)【生地】コーコン州【人種】タイ族【学歴】高校卒【経歴】1962：カンボジア共産党(PCK)に入党。70：カンボジア民族統一戦線の活動に参加。74：PCKと決別、ポル・ポト政権に対するゲリラ活動を展開。78：(反ポル・ポト勢力)カンボジア救国民族統一戦線(UFNSK)結成に参画(中央委員)。79：同戦線コーコン州軍事委員会議長。80：[1月]カンボジア人民革命軍編成の責任者、[8月]同軍参謀次長。81：(カンボジア人民共和国=プノンペン政府)国会議員(コンポントム州)。82：副国防相(空軍担当)。84：カンボジア人民革命党(KPRP：現CPP)中央委員。85：通信・運輸・郵政相。87：閣僚評議会副議長(副首相)。88：副首相兼国防相。89：[3月]党政治局員、[9月]カンボジア最高国民評議会(SNC)メンバー。93：[5月制憲議会選挙]議員に当選(CPP：シエムリアブ州)、[7月](暫定国民政府)副国防相、[10月](カンボジア王国政府)共同国防相。98：[11月]上級相兼共同国防相。2004：[7月]副首相兼共同国防相(昇格)。06：[3月](共同大臣制廃止に伴い)副首相兼国防相。08：[9月25日](第3次フン・セン政権)現職(再任)。

【横顔】タイ語とベトナム語を流暢に話す。親戚の多くがタイの市民権を保持。タイのタクシン元首相と個人的に親しい。

【備考】(別表記)ティア・バン

【既出データ】04/10/01

■副首相兼外務・国際協力相 Deputy Prime Minister / Minister of Foreign Affairs and International Cooperation

ハオ・ナムホン

Hor Namhong

▼データ：【政党】CPP：中央委常任委員【年齢】73歳(1935年11月15日生まれ)【生地】プノンペン【学歴】王立行政学院(外交部門高級官僚課程)修了。(仏)パリ大学法学部修士号取得。同大学国際研究学院修了。【経歴】1967：駐仏カンボジア大使館一等書記官。70：王国民族連合政府(GRUNC)に参加、GRUNCパリ代表部。73：GRUNC駐キューバ大使。75：プノンペンに召喚され、ポル・ポト政権(民主カンブチア)下で強制労働に従事。79：カ

ンボジア人民共和国(プノンペン政権)樹立に参画。80：副外相。82：駐ソ連大使。89：外務担当國務相。90：[9月]カンボジア最高国民評議会(SNC)メンバー、[11月]外相。93：[7月](暫定国民政府)上級相(-10月)。94：[9月](カンボジア王国政府)駐仏大使。98：[7月総選挙]国民議会議員に当選(コンボンチャム州)、[11月]上級相兼外務・国際協力相。2004：[7月]副首相兼外務・国際協力相(昇格)。08：[9月25日](第3次フン・セン政権)現職(再任)。

【趣味】ゴルフ、水泳、読書【家族】夫人との間に3男2女(3人の子息のうち、2人は外務省幹部として勤務)【横顔】一貫して職業外交官の経歴を歩んだ。フン・セン首相の外交分野における右腕的存在。【備考】(別表記)ホー・ナムホン【既出データ】04/10/01

■副首相兼経済財務相

Deputy Prime Minister / Minister of

Economy and Finance

キアット・チョン

Keat Chhon

▼データ：【政党】CPP：中央委員【年齢】65歳(1934年8月11日生まれ)【生地】クロチュ州チロン【学歴】(仏・パリ)ソルボンヌ大学理学部卒。(仏)サクレ国立科学・原子力技術学院、フォントネ原子力研究センターで研修。【経歴】1965：コンボンチャム王立大学学長(-68)。67：共産主義運動に参加、工業相・商業相。70：カンブチア民族統一戦線に参加、王国民族連合政府(在北京)閣僚。75：(民主カンブチア)ポル・ポト首相顧問兼通訳(閣僚)。79：国連安保理代表(大使)。81：内閣官房長官。82：国連工業開発機関(UNIDO：ウィーン)チーフ・テクニカル・アドバイザー、国連開発計画(UNDP)コンサルタント。84：ポル・ポト派から離脱。90：カンボジア人民革命党(KPRP)に入党。92：フン・セン首相経済顧問。93：[1月]国家投資委員会議長、[5月制憲議会選挙]議員に当選(コンボンチャム州)、[7月](カンボジア暫定国民政府)副首相、[10月](カンボジア王国政府)上級相(復興・開発担当)、カンボジア開発評議会(CDC)副議長。94：上級相兼経済財務相。98：[11月]上級相兼経済財務相(再任)。2004：[7月]上級相兼経済財務相(再任)。08：[9月25日](第3次フン・セン政権)副首相兼経済財務相(昇格)。

【横顔】1975年に成立した民主カンブチ

ア(ポル・ポト政権)で閣僚待遇のポストにあったが、84年に同派を離脱、その後旧プノンペン政府に転じた。ソルボンヌ大学で学んだエリートだけに、同政府でもフン・セン首相経済顧問などの要職に用いられた。CPPの古参党員ではなく、経済テククラートの立場だっただけに、長らく同党中央委入りできなかった。

【既出データ】00/06/15

■副首相 Deputy Prime Minister

マエン・ソムオーン

Men Sam An



▼データ：【政党】CPP：中央委常任委員【年齢】55歳(1953年生まれ)【経歴】プノンペン(ヘン・サムリン)政権広報担当(ジャーナリスト)。93：[5月制憲議会選挙]議員に当選(CPP：スヴァイリエン州)。98：[11月]内務省次官。04：[7月]上級相兼議会対策・監察相。08：[9月25日](第3次フン・セン政権)副首相(昇格)。

【横顔】カンボジア初の女性副首相。16歳の時に兵士になり、1970年代後半には(反ポル・ポト勢力)カンボジア救国民族統一戦線(UFNSK)幹部としてベトナム国境地帯での戦闘に従事したことで“女性戦士”として知られた。【備考】(別表記)メン・サムアン

■副首相 Deputy Prime Minister

ニュック・ブンチャイ

Nhek Bunchhay

▼データ：【政党】FUN：書記長【経歴】1994：[7月]カンボジア王国軍(RCAF)副総参謀長(中将)。97：[7月](タイ国境で)反政府部隊司令官。99：[3月]国王の恩赦を受け帰国、上院第二副議長に就任、FUNCINPEC党運営委員・副書記長。2003：[7月総選挙]下院議員に初当選(FUN：バットンバン州)。04：[7月]副首相兼共同国防相。06：[3月](共同大臣制廃止に伴い)副首相(国防相は解任)。08：[9月25日](第3次フン・セン政権)現職(再任)。

【横顔】1993年に成立した第一次連立政権(二人首相制)の下で、ラナリット第一首相(当時の)側近として国軍内「ラナリット派」勢力の事実上の指導者だった。97年の武力衝突事件の直後、タイ国境に逃れ反政

府部隊を組織し、その司令官を任じた。しかし、98年11月の第2次連立政権(第1次フン・セン)政権成立後にシアヌーク国王(当時の)恩赦を受け帰国。現在はFUN内でCPPと親密なグループの領袖。

【既出データ】04/10/01

■副首相 Deputy Prime Minister

ビン・チン

Bin Chhin

▼データ：【政党】CPP：中央委常任委員【経歴】93：[5月制憲議会選挙]議員に当選(CPP：プレイヴェーン州)。カンボジア憲法評議会議長。2007：[3月]CPP常任委員、[9月]副首相。08：[9月25日](第3次フン・セン政権)現職(再任)。

■副首相 Deputy Prime Minister

イン・チャイリー

Yim Chhai Ly

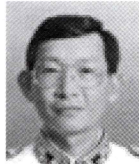
▼データ：【政党】CPP：中央委員【経歴】90：(プノンペン政府)保健相。93：[10月](カンボジア王国政府)地域開発省次官。98：[11月]地域開発省次官(再任)。2004：[7月]地域開発省次官(再任)。08：[9月25日](第3次フン・セン政権)副首相(昇格)。

《上級相》

■上級相兼商業相 Senior Minister / Minister of Commerce

チャム・ブラシット

Cham Prasidh



▼データ【政党】CPP：中央委員【年齢】57歳(1951年5月15日生まれ)【生地】プノンペン【人種】華人系(Sino-Khmer)【学歴】1973：プノンペン総合大学卒(経済学・商学)。80/84：カンボジア外務省外交官養成課程修了【経歴】73：(半官半民の金融機関)“Credit Foncier”会計監査官。75：(ポル・ポト政権下)バットンバン州に「下放」し労働。79：シエムリアップ州で農業に従事。80：(プノンペン政府)外務省通訳官。81：外務省広報局副局長。82：外相秘書官。84：外務省総合政策局長(兼任)。85：外務省総合政策局長兼(フン・セン)首相秘書官。87：内閣官房副長官(経済・財務・外務担当)。93：[7月](カンボジア暫定国民政府)副経済財務相、[10月](カンボジア王国政府)経済財務省次官。94：

[10月]商業相。98：[7月総選挙]国民議会に当選(CPP：シエムリアップ州選出)。

[8月]商業相・下院議員・CPP党員を辞任、[10月]商業相(復帰)。98：[11月]商業相(再任)。2004：[7月]上級相兼商業相。08：[9月25日](第3次フン・セン政権)現職(再任)。

【家族】夫人と子供4人

【横顔】ポル・ポト政権時代を生き延びた後、旧プノンペン政府の外務官僚としてのキャリアを歩んだ。1985年からはフン・セン首相の秘書官を務め、その実務能力を認められた。*CPP中央委常任委員ではなく、元来は党人の政治家というよりはフン・セン首相が個人的に信頼するテククラート閣僚。

*1998年にフン・セン首相と「個人的」な理由で衝突し、商業相の辞任とともに同年7月の総選挙で獲得したばかりの国会議席を返上するという「事件」があった。首相が「詫言」を入れたことで3カ月後に商業相に復帰した。

【既出データ】03/02/01

■上級相兼計画相 Senior Minister / Minister of Planning

チャーイ・トーン

Chhay Than

▼データ：【政党】CPP：中央委常任委員【経歴】1981：(プノンペン政府)財務省税務局長。83：財務相顧問。84：副財務相。86：財務相。93：[5月制憲議会選挙]落選(CPP：タケオ州)、(暫定国民政府)副退役軍人相、[10月](カンボジア王国政府)経済財務省次官補。98：[7月総選挙]国民議会議員に当選(CPP：カンダール州)、[11月]計画相。2004：[7月]上級相兼計画相。08：[9月25日](第3次フン・セン政権)現職(再任)。

【備考】(別表記)チャイ・タン

■上級相兼土地管理・都市計画・建設相

Senior Minister / Minister of Land Management, Urban Planning and Construction

イム・チュンリム

Im Chhun Lim

▼データ：【政党】CPP：中央委常任委員【経歴】92：(プノンペン政府)教育相。1993：[5月制憲議会選挙]議員に当選(CPP：プノンペン)、[10月](カンボジア王国政府)内務省次官。98：[11月]土地管理・都市計画・建設相。2004：[7月]上級相兼土地管理・都市計画・建設相。08：[9月25日](第3次フン・セン政権)現職(再任)。

■上級相兼環境相

Senior Minister / Minister of Environment

モック・マレット

Mok Mareth

▼データ：【政党】CPP：中央委員【経歴】1994：[10月] (内閣改造)環境相。98：[11月] 環境相(再任)。2004：[7月] 上級相兼環境相。08：[9月25日] (第3次フン・セン政権)現職(再任)。

《各省大臣》

■情報相 Minister of Information

キュー・カンニャルット

Khieu Kanharith



▼データ：【政党】CPP：中央委員【経歴】(プノンペン政府)政府スポークスマン。1993：[5月制憲議会選挙] 議員に当選(CPP：プノンペン)、[10月] (カンボジア王国政府)情報省次官。98：[11月] 情報省次官(再任)。2004：[7月] 情報相。08：[9月25日] (第3次フン・セン政権)現職(再任)。

■公共事業・運輸相

Minister of Public Works and Transport

トラム・イウテック

Tram Iv Tek



▼データ：【政党】CPP：中央委員【経歴】1993：[10月] (カンボジア王国政府)公共事業・運輸省次官。98：[7月総選挙] 国民議会議員に当選(CPP：コンボンチナン州)、[11月] 公共事業・運輸次官(再任)。2004：[7月] 公共事業・運輸次官(再任)。08：[9月25日] (第3次フン・セン政権)現職(昇格)。

■郵便・電気通信相

Minister of Posts and Telecommunications

ソー・クン

So Khun



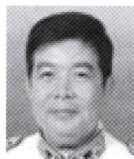
▼データ：【政党】CPP：中央委員【年齢】59歳(1949年生まれ)【生地】カンダール州【学歴】農業経済学課程修了【経歴】灌漑局職員。1970：農業省局長。75：(ポル・ポト政権下)強制収容所で生活。81：(プノンペン政府)水利局長。86：副農業相(-92)、メコン国家委員会委員。92：通信・運輸・郵政相。1993：[5月制憲議会選挙] 議員に当選(CPP：タケオ州)、[7月] (カンボジア暫定国民政府)運輸相、[10月] (カンボジア王国政府)郵便・電気通信庁長官。94：[10月] (内閣改造)郵便・電気通信相。98：[11月] 郵便・電気通信相(再任)。2004：[7月] 郵便・電気通信相(再任)。08：[9月25日] (第3次フン・セン政権)現職(再任)。

【横顔】元来は農業経済の専門家。1993年からは一貫して電気通信関連業務に携わっており、同分野の日本企業の関係者にはよく知られている。

■鉱工業エネルギー相

Minister of Industry, Mines and Energy

スイ・サエム



▼データ：【政党】CPP：中央委員【年齢】61歳(1947年生まれ)【生地】ポーサット州バカン郡【学歴】経済学士取得【経歴】1970：労働省入省。75：(ポル・ポト政権下を)生き延びる(-79)。91：(プノンペン政府)副計画相。93：[1月] 労働・社会福祉相、[5月制憲議会選挙] 議員に当選(CPP：ポーサット州)、[7月] (カンボジア暫定国民政府)労働・社会福祉相、[10月] (カンボジア王国政府)福祉・労働・退役軍人庁長官。98：[11月] 鉱工業エネルギー相。2004：[7月] 鉱工業エネルギー相(再任)。08：[9月25日] (第3次フン・セン政権)現職(再任)。

【横顔】元来は労働問題の専門家だが、過去10年間は一貫して鉱工業エネルギー相を務めてきた。【備考】(別表記)スイ・セム

■観光相 Minister of Tourism

タウン・コン

Thong Khon

▼データ：【政党】CPP：中央委員【経歴】93：[10月] (カンボジア王国政府)観光省次官。98：[7月総選挙] 国民議会議員に当選(CPP：コンボントム州)、観

光省次官(再任)。2004：[7月] 観光省次官(再任)。07：[5月] 観光相(昇格)。08：[9月25日] (第3次フン・セン政権)現職(再任)。【横顔】2007年の観光相への昇格は、前任者のライ・プロパ氏(FUN)が解任されたことによる。

【備考】(別表記)トン・コン

■農林水産相 Minister of Agriculture, Forests and Fisheries

チャン・サルン

Chan Sarun

▼データ：【政党】CPP：中央委員【生地】タケオ州バティ郡【学歴】1973：農業大学卒。(旧)ソ連留学(農学修士号取得)【経歴】留学から帰国後、農林省入省(水利・作物検査官)。5：(ポル・ポト政権下を)生き延びる。79：(プノンペン政府)農林省に復帰(林業専門家)。森林局副局長、同局長を歴任(-97)。この間、農業大学林学部長、チャ・シム国会議長(当時)顧問を兼任。98：[11月] 農林水産相次官補(林業担当)兼フン・セン首相顧問。2001：[8月] (内閣改造)農林水産相。04：[7月] 農林水産相(再任)。08：[9月25日] (第3次フン・セン政権)現職(再任)。【家族】子供4人【横顔】「チャン・サルン」はポル・ポト政権時代に身元を隠すために付けた名前で、旧名はニョール・ホン・スルン(Ngor Hong Srun)。映画「キリングフィールド」でアカデミー賞を受賞した俳優、故ハイン・ニョール氏の実弟。

*97年に森林局長を更迭され、一時期閑職にあったが、これは同氏が政府高官による違法な森林伐採を批判したための政治的人事だった。このことで、支援国グループからカンボジア政府に対して同氏の元職復帰への「嘆願」がなされたという経緯がある。

■地域開発相 Minister of Rural Development

チア・ソパラ

Chea Sophara

▼データ：【政党】CPP：中央委員【年齢】56歳(1952年生まれ)【経歴】プノンベン(北部)トゥルコック区長。95：プノンベン第一副市長。99：[11月] プノンベン市長。2003：[2月] 同市長を解任される。駐ミャンマー大使。08：[9月25日] (第3次フン・セン政権)現職。【家族】子供7人。

【横顔】プノンベン市長時代はフン・セン首相の「側近中の側近」といわれた。2003年1月末に起きた反タイ暴動で首都の治安を確保できなかった責任を問われて市長職を解任されたが、第3次フン・セン政権で閣僚として要職への復帰を果たした。

(アジア・リンケージ 勝田 悟)